

Robotics Report

新たな常識のはじまり

中国AI企業で注目される ビジュアル・コンピューティング分野

nikko am
fund academy



米国と肩を並べるAI(人工知能)大国になりつつある中国。日々、新しいAI企業が誕生する中で、どのような分野が注目されているのか。今回は、その“鍵”となる商業化・実用化に焦点を当てて中国AI企業をご紹介します。

■ トップ8社の半分以上を占めたビジュアル・コンピューティング

6月に中国・上海で開催された大規模産業展示会「2018グローバルAI+ニュービジネスサミット」で発表された「2018中国AI商業化企業100社ランキング」^注によると、トップ8社に、

注:収益や顧客規模、認知度などのスコアでランキング

顔認証を中心とする 画像・映像解析関連 (ビジュアル・コンピューティング)	SenseTime(商湯科技)	ロボット開発	UBTECH(優必選科技)
	Megvii(曠視科技)	AI画像認識チップ	Cambricon(寒武紀科技)
	Cloudwalk(雲衆科技)	スマートアプリプラットフォーム開発	Haier U+(海爾U+)
	Eyecool(眼神科技)	動画の制作・映像ソリューション	Moviebook(影譜科技)

がランクインしました。これら8社の売上規模は10億~20億人民元(約170億~340億円*)で、企業価値は10億~50億米ドルとされています。なお、別の報道によると、現在、企業価値10億米ドル以上とされる中国AI関連のユニコーン企業は13社あり、最高評価額はUBTECHの50億米ドルとなっているようです。

中国では、フィンテックやパブリック・セーフティ、医療分野で、顔認証技術を始めたビジュアル・コンピューティング技術の導入が急速に進んでおり、今回のランキングの結果にも反映されているようです。テンセント研究院が2017年7月に発表したレポートによると、中国によるAI関連への投資額(世界全体)は、ビジュアル・コンピューティング分野が最も多く、全体の23%を占める143億人民元(約2,431億円*)にのぼったとしています。



※写真はイメージです

■ 中国AI産業は次のステージに突入

一方、前述の展示会で発表された「中国AI商業化実現報告書2018」によると、17年の中国AI関連のスタートアップ企業の約9割が赤字だったと指摘しており、技術は発展しているものの商業化への壁は高いといった面もあるようです。こうした状況に対し、中国メディアは18年にAI産業は「二次革命」に入ったと分析しており、中国は、商業化への道筋が立ちつつある自動運転分野や、国家主導で開発を強化するAIチップ分野などで躍進しようとしています。なお、17年7月に中国国務院が発表した「次世代AI発展計画」では、2020年までにAIの全体技術と

その応用を世界水準に引き上げ、AI関連産業規模を1兆人民元(約17兆円*)にする目標を掲げています。

中国投資ファンド・SINOVIATION VENTURESの李開復CEOは、「AI分野の研究者が起業する時代は終わり、技術だけでなく、製造工程も理解し、経営能力も必要な時代」と述べており、中国のAI産業は最先端テクノロジーを駆使したスタートアップ乱立の時期を脱し、実用化・商業化という次なるステージに向けて走り出しているようです。

*本文中の為替換算は1人民元=17円



※写真はイメージです

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

(当レポートは、株式会社ロボティアの情報をもとに日興アセットマネジメントが作成しています。)

■当資料は、日興アセットマネジメントがロボティクスに関する情報についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。